

大妻学院創立百周年記念特別号 茶道部だより

発行
08年12月14日
大妻女子大学
表千家茶道部

本日は、雪待茶会にお越し
くださり、誠にありがとうございます。
させていただきます。

本学は今年、創立百周年を
迎え、本学茶道部は来年創立
六十周年を迎えます。このよ
うな記念すべき節目の年に
立ち会えることを、私達一同
大変光栄に思っております。

部員全員で協力し合い、お
客様に楽しんでいただける
茶会にするため、頑張つてま
いりました。皆様にお楽しみ
いただけましたら幸いです。

京都妙顕寺にて夏合宿



大妻学院百周年によせて



顧問
大森 正司

大妻女子大学は平成二十年十一
月に、創立百周年を迎えました。
つまり、本学は大妻コタカ先生が
裁縫・手芸塾として一九〇八年明
治四十一年に創立したのが始ま
りです。更に、二〇〇九年は大妻
コタカ先生の生誕百二十五年(明
治十七年生まれ)とされる由。何
とコタカ先生は二十四歳の若さ
で、本学を設立しているのです。

本学の目的、建学の精神は「廉
恥報恩を基調とする徳操を涵養
し・・・」となっておりますが、我
が大妻女子大学茶道部は、その精
神をもっとも色濃く伝承し、来年
設立六十周年を迎えます。そし
て、永く茶道部を顧問として牽引
して頂いた、「石井とめ子」先生を
お迎えして雪待茶会を開催する運
びとなりました。



師範
浅賀 宗容

大妻学院創立百周年を迎え、大妻
喜ばしく、卒業生としても誇りに思
います。「大妻学院の百周年」の歩み
や「ふるさと」の(大妻コタカ先生の
衣装)を読み、大妻コタカ先生の功績
やお人柄をしみじみ感じ取ることが
できました。

私が大妻学院の校門をはじめてく
ぐったのは高校一年の時です。私に
とりまして、この一年の思い出は克
明にあって、集会の時にお話しされ
る、大妻コタカ先生の姿を思い出し
ます。手を前で組む時、右手を左手
で押さえるなど、日常の心得などを
わかりやすく話して下さいました。
講堂でマイクを通さず、大声で話さ
れた時があり、隅々まで行き渡るは
りのあるお声にびっくりにしたのを覚
えております。

我が茶道部は大妻女子大学設立と
共に、創部されたと聞いております。
そしてその茶道部も来年六十周年を



部長
浮田 すみれ

迎えます。大妻学院のさらなる
発展を期待しますと共に、
茶道部も先輩からの伝統を引
き継ぎながら前進できますよ
う心からお祈り申し上げます。

本年は大妻女子学院百周
年、また来年は我が茶道部設
立六十周年という節目の年を
現部員と共に迎えることがで
きましたことは本当に嬉しい
ことでございます。雪待茶会
を無事催すことができ私たち
の茶道部としての活動も終わ
りに近づいています。この歴
史ある部を、これからも大切
によりよい部を作り続けてふ
しいと思います。

最後になりましたが、学長
先生を始めとする諸先生方、
大学関係者の皆様、また先輩
方に厚く御礼申し上げますと
共に、今後とも一層のご指導
ご鞭撻の程、よろしくお願
い致します。

60周年記念行事のお知らせ

来年度、大妻女子大学茶道部は発
足60周年を迎えます。そこで、下
記日程にて60周年記念のセレモニ
ーを開催します。是非足をお運びく
ださい。

記

日にち 2009年8月30日(日)
場所 グランドパレス九段
内容 熊倉功夫先生による講演、
セレモニー、茶会など



表千家表門前にて(京都夏合宿)

また、京都宇治の老舗小山園様のご
協力を得て、合宿のしめくりとなる
茶会を実施することができました。
この合宿での全てが初めての経験
であり、うまくいかないこともありま
したが、部員それぞれが互いに協力し
合うことで、絆を深めることができ、
最高の夏合宿となりました。



添釜茶会にて

大妻祭添釜茶会 小林 智織
十一月三、四の二日間にわたり大妻
添釜茶会を行いました。
文化祭に向け、京都宇治に合宿に行
きお点前の練習を行なったり茶道の歴
史についても学びました。
文化祭当日は、下級生による広間で
の緊張感あるお茶席と、上級生による
小間での落ち着いた雰囲気のお茶会
に二席を行いました。大妻百周年とい
うこともあり、例年より多くの百五十
名ほどのお客様に足を運んでいただ
き、無事文化祭を成功することができ
ました。

◆編集後記

至らない点も多くあ
りますが、楽しんで
読んで頂けたら
幸いです。
次回はもう少し見や
すくしたいと思いま
す。
林・倉島